

資源の利用状況及び廃棄物処理の現況について

1 資源の利用状況（物質フロー）

（1）本県における物質フロー

本県における物質の投入、蓄積、消費、移出入、廃棄等の現状を整理し、資源循環の状況を包括的に観測するため、2019 年度及び 2024 年度（速報値）の物質フロー図をそれぞれ作成した。

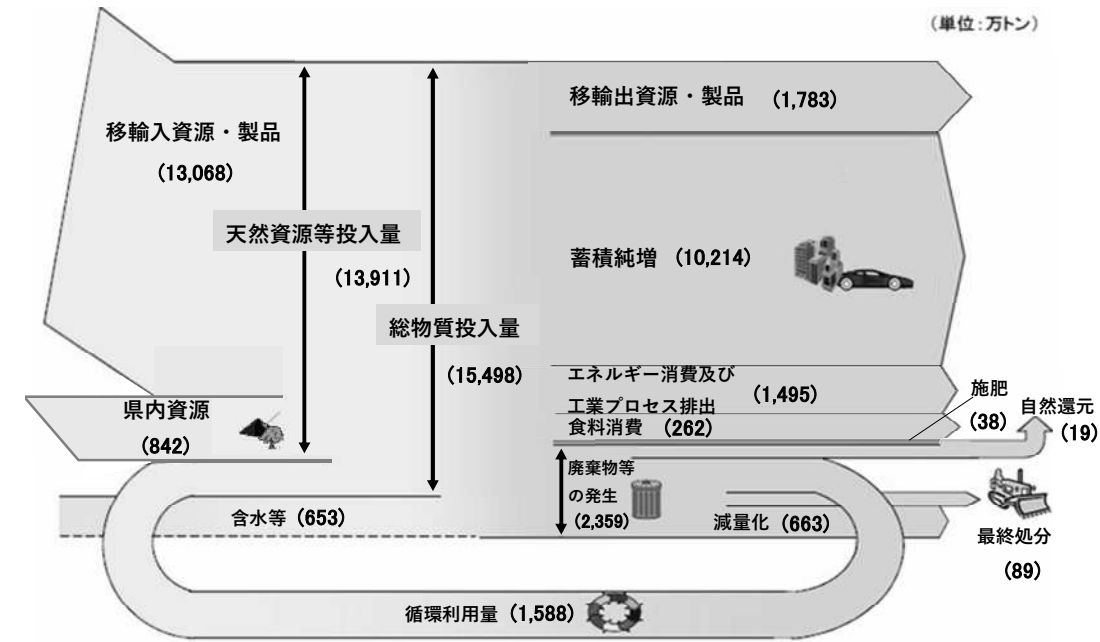


図 1 本県における物質フロー（2024 年度：速報値）

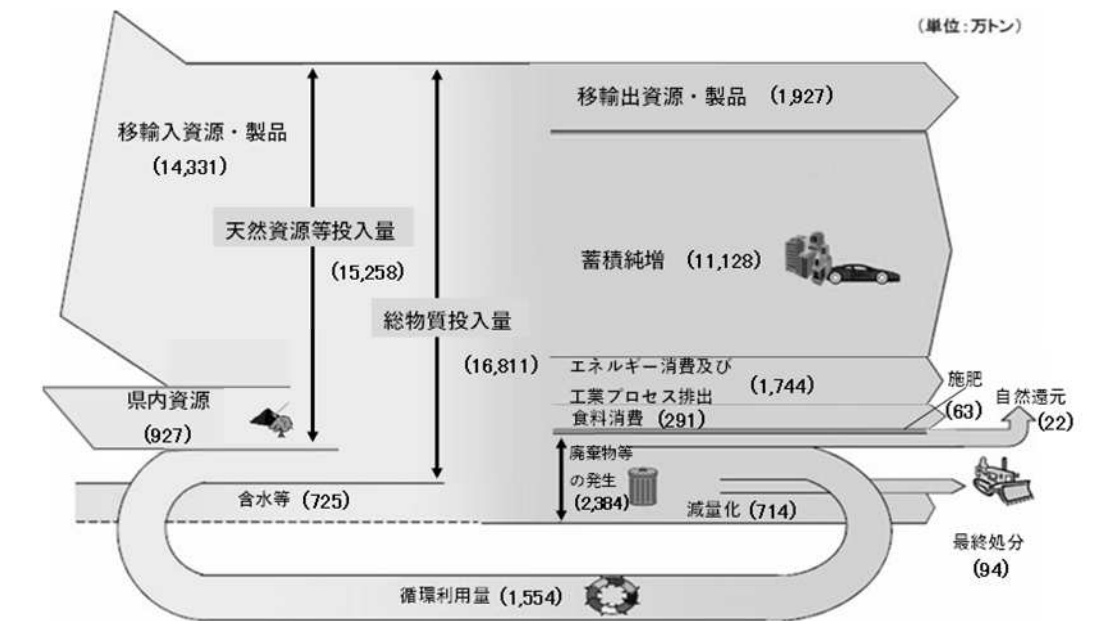


図 2 本県における物質フロー（2019 年度）

また、国が基本計画で設定する物質フローの断面（入口、循環、出口）に関する指標について、本県においても算出し、全国値との比較等により本県の物質フローの特徴を導き出した。

表 物質フローにおける主要指標

項目	2019 年度	2024 年度 (速報値)	【参考】全国 (2023 年度)
① 資源生産性	26.7 万円/トン	31.0 万円/トン	50.9 万円/トン
② 一人当たり天然資源消費量	17.6 トン/人	16.2 トン/人	12.1 トン/人 (2021 年度)
③ 再生可能資源及び循環資源の投入割合	15.4%	16.3%	30.1%
④ 入口側の循環利用率	9.2%	10.2%	17.0%
⑤ 出口側の循環利用率	65.2%	67.3%	43.6%
⑥ 最終処分量	94 万トン	89 万トン	1,200 万トン
(最終処分率)	4.0%	3.8%	2.3%

＜本県の物質フローの特徴＞

○ 巨大な製造基盤を支える資源・エネルギーの投入

天然資源等投入量の移輸入は、全国値（59.6%）を大きく上回る 93.9%※となっており、そのうち岩石・砂利が 49.5%、化石燃料が 31.6%を占めている。

※ 天然資源等投入量 13,911 万トンのうち県外からの移輸入が 13,068 万トン进行占める(図 1)。

○ 産業構造を反映した資源生産性

資源生産性（＝県内 GDP／天然資源等投入量）は、全国値（50.9 万円/トン）を下回る 31.0 万円/トンとなっており、これは鉄鋼等の重量の大きい資源を大量に投入・加工する素材型・組立型工業が県内に高度に集積していることで、天然資源等投入量が大きくなっていることが要因として考えられる。

○ 高い出口側の循環利用率

出口側の循環利用率は、全国値（43.6%）を大きく上回る 67.3%となっており、製造工程で排出される副産物（金属くず、鉋さい等）を効率的に再資源化していると考えられる。

（2）物質フローの活用について

次期計画においては、物質フローを本県の産業・経済構造を俯瞰的に把握するための参考指標として位置付けるとともに、循環利用率や最終処分量等の廃棄物施策による効果が反映されやすい指標と併せて総合的に評価していくものとする。

2 廃棄物処理の現況

(1) 一般廃棄物

一般廃棄物について、排出量、再生利用量、減量化量及び最終処分量は経年的にはいずれも減少傾向にある一方で、出口側の循環利用率については約 22%で横ばいである。

一人一日当たりの家庭系ごみ排出量及び一人一日当たりのごみ焼却量についても減少傾向で推移している。

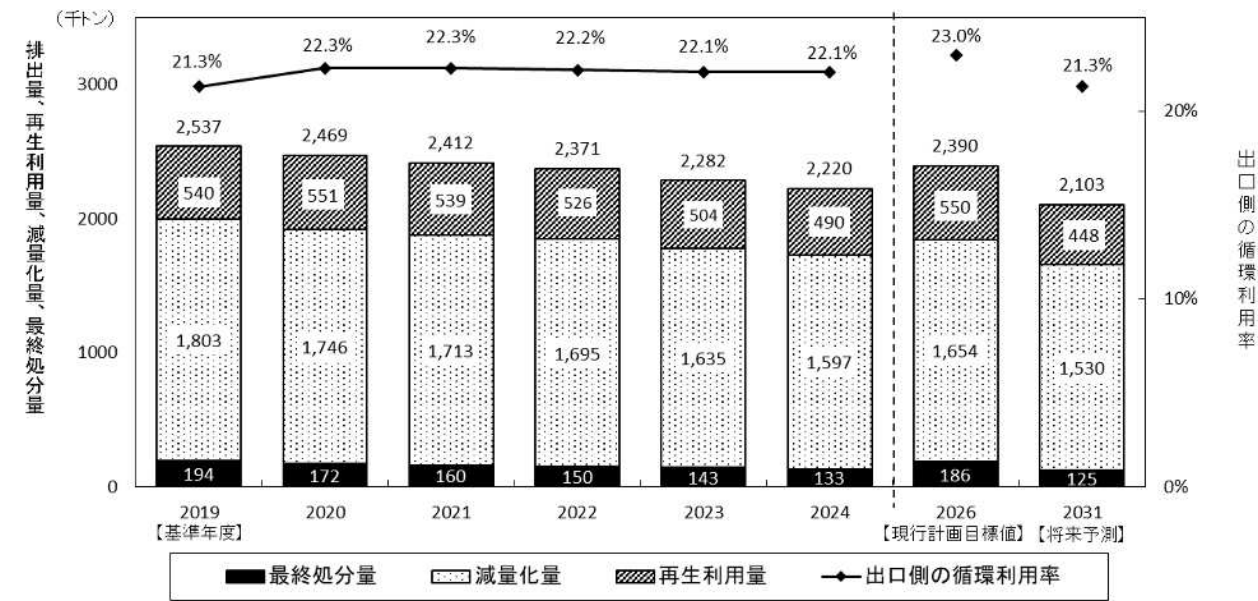


図3 一般廃棄物処理の経年変化及び目標の達成状況等

(2) 産業廃棄物

産業廃棄物について、排出量は経年的に見れば横ばいである。

最終処分量については、2021 年度までは減少傾向を示していたが、2022 年度で大きく増加し、そこからまた減少傾向に転じて 2021 年度以前の水準に戻りつつある。

出口側の循環利用率については、70%前後の高水準で推移している。

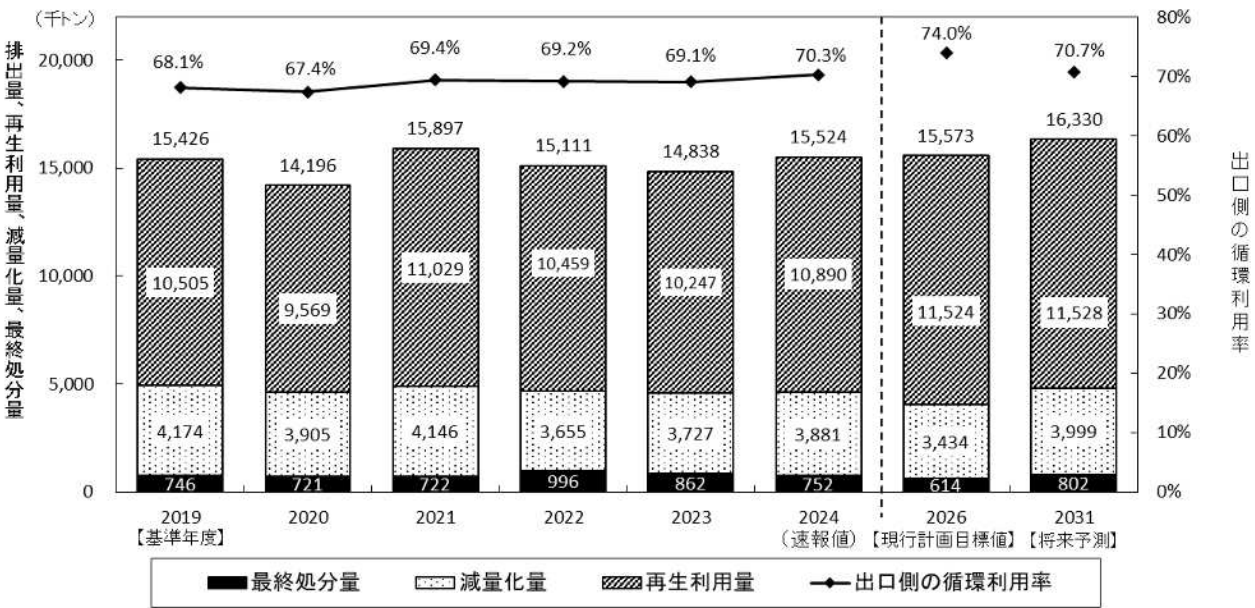


図5 産業廃棄物処理の経年変化及び目標の達成状況等

(3) 食品ロス

食品ロスについては、家庭系食品ロス、事業系食品ロスともに同程度の割合で減少した（家庭系：約 23.3%減、事業系約 21.8%減）。

なお、家庭系食品ロス、事業系食品ロスの内訳の割合には大きな変化はなかった。

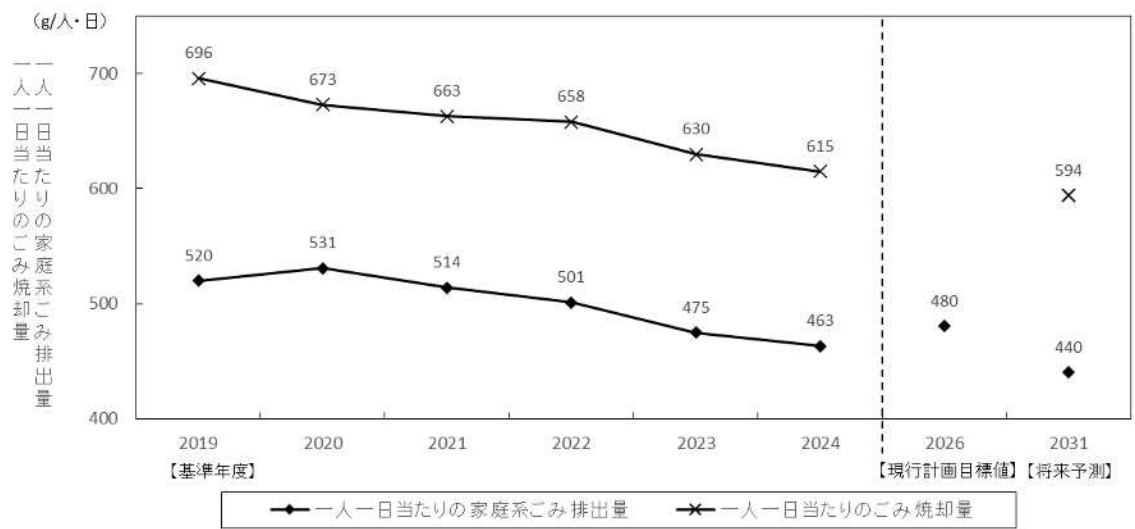


図4 一人一日当たりの家庭系ごみ排出量及び一人一日当たりのごみ焼却量

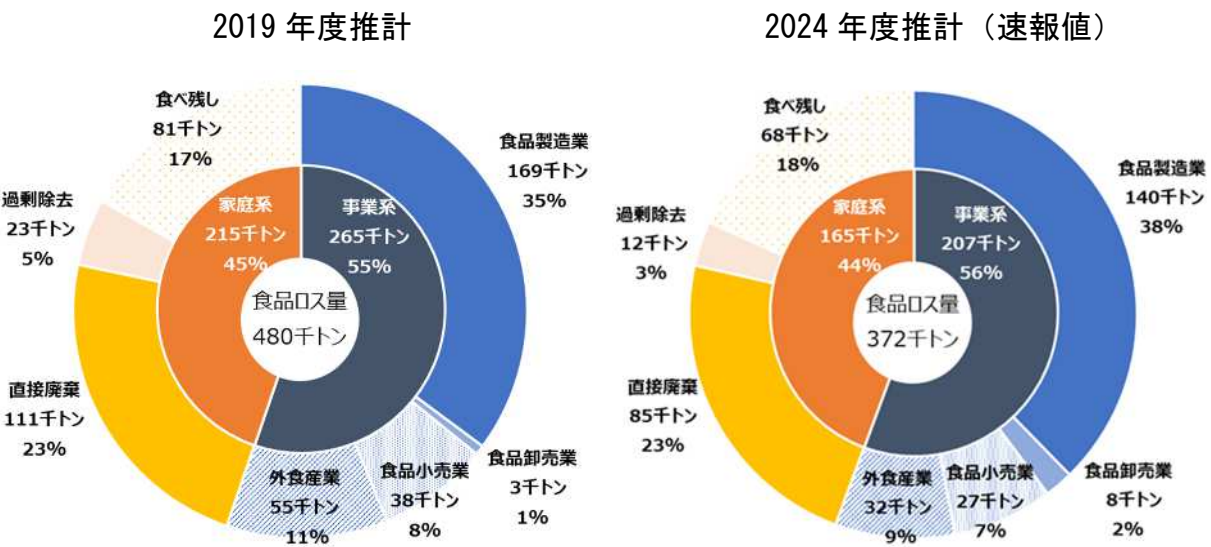


図6 食品ロスの発生量状況